広報こすど
発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
編集発行人 印刷人 矢部藤三郎

定校専用教室建築やら 中学校産業施設費等も

定例町議会

二十五案件、八請願を審議

小須戸町定例議会は十月五、六両日開会されたが提案審議された案件について第一号議案から順次その概略を述べて町民各位の御批判の資料といたしたい。

◇条例関係

第一号小須戸町特別職の職員退職手当支給条例設定の件。原案通り可決したが条文の内容については修正の要があると思われるので次の議会に一部改正条例を総文委員会で研究して提案することになつた。この条例は町長、助役、収入役に対する退職手当の支給に関する事項を定めたものである。

第二号小須戸町特別職の給与に関する条例の一部を改正する条例。これは従前の町長、助役、収入役の給与の額を改正しようというものであるが慎重検討の要があるということで総文委員会へ附託。

第三号小須戸町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例。この改正は国や県の指示により町職員の初任給を引き上げる必要が生じたことと暫定手当を本俸に繰入れることゝなつたための改正で原案通り可決した。

第四号小須戸町職員の職務の等級に関する条例の一部を改正する条例。これも原案通り可決。

第五号小須戸町職員の分限に関する手続及び効果に関する条例設定の件

第六号小須戸町職員の懲戒の手続及び効果に関する条例設定の件以上二件は新しく条例を設定することでもあるので十分検討の要があるとして総文委員会附託となつた。

第七号小須戸町国民健康保険税条例の一部を改正する条例。これは税率を次の通りに改めるというものであるので原案通り可決を見た。

所得割　百分の一、九を二、一に

資産割　百分の八、五を八、五に(従来通り)

被保険者均等割一人につき一九五円を二〇〇円に

世帯平等割一世帯について七九五円を八二五円に

これによつて国民健康保険税は前年度予算と比べて十二万円の増となり従つて一世帯平均約六五円の増税ということになる。

◇一般議案

第九号議案は農業共済組合が農機具事業費の一部資金二六万円を寄附したいことであり第一〇号議案は定時制高等学校の専用教室建築資金の一部として一五万円を同校PTA同窓会等が寄附したいというのだが何れもこれを採納することに議決された。

第一一号昭和三十四年度上水道拡張工事起債変更については原案通り可決

第一二号小須戸町助役選任の件。このことについてはすでに町民の皆さんが周知のことと思われるが水田木村敬三郎氏を議会の同意を得て助役に選任したいということであつたが慎重討論の結果票決に持ちこまれ遂に否決となつた。

第一三号小須戸町収入役選任の件これは第一二号議案と関連性もあるので町長から提案を撤回された。

第一四号小須戸町教育委員任命の件。竜玄長沢熊太郎氏を再任することで原案通り可決となる。

次の第一五号農協倉庫増築補助に関する件。第一六号煙草組合員回転広告板設置補助に関する件。

第一七号矢代田地区撒水車購入補助に関する件。

第一八号町裏排水路撃坑工事に関する件。第一九号金山地内道路位置変更に関する件。第二〇号小須戸道路舗装に関する件の各議案はいずれも以前の議会に請願書が提出され、それぞれ委員会附託となつていたものであるがその審議結果の報告があり各委員長報告通り承認となつた。

第二一号昭和三十四年度小須戸町一般会計歳入歳出追加更正予算、約四一一万円の追加更正予算が原案通り可決された。その主なるものについて歳入歳出に分けて示すと次の通りである。

歳入の部

町民税	二〇万円
固定資産税	七〇万円
地方交付税	一二一〃〃
教育費補助	二三〃〃
勧業費補助	四五〃〃
寄附金	四一〃〃
前年度繰越金	七六〃〃
歳出の部	
議会費	一〇万円
役場職員費	一八〃〃
前町長退職金	六五〃〃
矢代田小学校放送施設費	二二万円
中学校理科教育備品費及び産業教育施設費	四六〃〃
定校建築費	六五〃〃
勤噴購入費	七七〃〃
トラクター購入費	二八〃〃
農協倉庫補助	一〇〃〃
プール建設補助	四〇〃〃

第二二号昭和三十四年度小須戸町上水道特別会計歳入歳出追加更正予算

第二三号昭和三十四年度小須戸町特別会計国民健康保険歳入歳出追加更正予算第二四号昭和三十四年度小須戸町上水道拡張工事特別会計歳入歳出追加更正予算以上三つの予算関係議案は何れも主として人件費の追加予算で極めて少額に止まるものであるが原案通り可決された。

第二五号定時制高校小須戸分校専用教室建築に関する件、原案通り可決。

第二六号町道並びに下水道位置変更に関する件旧小須戸小学校の校門から寿町に至る町道と下水道の位置を変更してまつすぐにするというもので原案通り可決された。

◇請願関係

次の請願書八件については審議の結果いずれもこれを採択してそれぞれの委員会に附託された。

たゞし第一項についてはその趣旨も内容も明確であるので委員会附託はしないことゝなつた。

一、学校プール建設補助増額について

二、矢代田地内道路水害による復興費補助について

三、小須戸地区保護司会助成費について

四、鎌倉地内町道拡張工事助成金について

五、給与所得者町民税賦課について

六、小須戸町道路舗装について

七、信濃川対岸部落電話架設費補助について

八、旭町道路排水溝工事費補助について

最後に横町、東町、出雲町年番代表其の他から小須戸橋架替位置問題について嘆願書が提出され審議の結果前議会において現位置ということに議決を見ていることでもあり今更これを変更することはできないが今後の問題については小須戸橋特別委員会において十分検討をするということに決定された。

市場風景

永久小須戸橋早期竣功を希う

渡辺助一郎

小須戸橋が永久橋に架替えられることが、国、県の方針で現位置に決定され、地元たる小須戸町当局も、議会も同意してその方向に協力し、早期竣工を念願している現況を各位と共に同慶に堪えない。この段階までの経過を若干顧みて町民各位の御批判を得たいと考えて、所感の一片を投稿した。この問題位タイムが無視され、合致しないケースも珍しいと思う。

先づ第一に国、県の実施計画が発表され、相当日時が経過しても位置については、当局からも町民よりも全然話題が出なかつたことが、余りにも不思議なので町議会で、私見として質問したところ、何処からも現位置以外の要望がないので、現位置でよろしいものとの見解が披瀝された。

その後僅々一ヶ月位の間に、現位置反対の運動があつたとすれば、今少し早く公然と要望すべきではなかつたかと思う。

第二点は対岸に橋を架替える場合、全体の町づくり、交通保安等凡ゆる角度から検討して、理想の位置を決定するとして、仮にタイムにゆとりありとせば私も住吉町対岸を一指に挙げたい。

第三に永久橋の橋脚が伸長決定され、従つて取付道路の嵩あげ工事が発生したこと。これとても此の機を逸したら又何時の日と云うことになる。こゝが当局も議会も泣きどころであつて、理想と現実のギャップに悩まされるところでもある。

さりとて現実一辺倒、拙速を好むものではないが、これまでの経緯を逆転させて振出しに戻し、位置を論じ合つても恐らく民論がスッキリ集約されないであろうし、当然架替の機会を当分の間失うこと必然であろうことが、流布せるデマや流説を払拭し、待望の永久橋架替竣功に役立つことであろう。今迄のところ特定の人物の裏面工作や醜聞も窺えない。上部機関の決定、方針の隠れ蓑にして町民の批判、鉾先をかわす意志のないことも訴え、各位の御協力、御鞭撻を切望する。

この永久橋が将来発展する小須戸町市街地の中心部となることを只管希つて擱筆したい。

最初から判つていれば、(当初計画になし)又検討、打開の余地もあつたであろう。以上であるが、そも〳〵今回この架替が早期実現化した主な理由は、地元出身県国会議員諸公並に渡辺厚相のお骨折り大なるものがあつたことを承つているし、又当然そうであろう。財政的に必ずしも県、国の好条件に乗つていると考えられない今日の状態で、等勘考した場合、一部の不満と後世にどう批判されよう共、割切つて事態を推進させる以外に方途なしと考える次第である。本紙が発刊される頃は県と地元利害関係者との補償折衝が酣となるであろうが、円満な妥結と今後の協力が期待されること、当局も議会も私情を捨て、架設竣功までの凡ゆる障害排除と、町民の利便に最善を尽すこと が展開され八月三日を頂点として、今日まだくすぶつている模様である。この点が未だに私の釈然としないところである。

同時に架替実施の決定を発表し位置は現橋のところでよいか、(観念的にそう思い込んだとしても)どうか諮るべきであつたと考えられるし、一方反対運動展開の諸氏も、住吉町対岸にと念願する声

市場の移転

十一月より

本町市場は二百五十年来の古き歴史をもち、発展して来た。近年車輌も増加し、且大型化され、年々道路交通による犠牲者も又増加、常設の市場を主要幹線道路に開設することが、本年四月以降よりできなくなり、町として再三の協議を重ね、検討して来たが、十一月より信濃川堤防町道線に移転開設することになつた。

共同募金

今年の目標額

一四五、九六〇円

今年は歳末助け合い運動募金も含めることになりました。

一般募金一二九、九四〇円

歳末募金一六、〇二〇円

皆さんのあたたかい御協力を心からお願い申し上げる次第であります。

(役場厚生課)

近く水道拡張工事が着工される

一昨年より要望されていた、水道拡張工事も愈々水道起債額一千四百万円の内示があり、見通しがついたので町当局では近く業者の指名入札により本年度中に着工の運びになつた。今回の拡張は従来なかつた約四五〇屯入の浄水池の新設及び急速濾過池一池の増設、浄水場を衛生的に整理することゝ、別に末端部落へ一部配管が含まれているが、浄水池は水道構造からしてなくてはすまない重要なもので、これが出来上れば取水場の故障で取水のできない場合でも約四、五時間分は給水ができ非常の際にも送水することができる。又濾過池は現在二池で当初計画では一、四〇〇屯の濾過能力として一池を予備となし交互に使用していたが、使用水量の増大に伴い二池を常時使用しなければならない現況でこれが洗滌にも無理があつたが、新規に一池増設されることにより常時二池を使用可能となる。

更に末端部落への配水管延長により相当水量の補給がなされるので部落方面の、水の出の悪い不評判は近く解消される。

それに附帯工事としては赤い水を給水されるといわれる根本原因の吐泥管のなかつたものを要所に取付け、管内掃除をなし赤い水を出さないようにする。特に近く計画される道路舗装の面も考え水道管分岐引込線の漏水防護等が計画されているが、工事の総工費は昨年から実施済のものを加え壱千四百参拾弐万円の予定である。

小須戸町連合婦人会幹部きまる

小須戸町連合婦人会では今春以来会長が欠員であつたのでその補充につとめて来たが遂に適任者の就任を見ることが出来ないため先般協議の結果会長は当分おかないことにして副会長四名を次の方にきめ協力一致して会長事務を代行し会の発展に尽力していたゞくことにお願いした。

副会長　保科光枝

〃　聞野コメ

〃　野崎キノ

会計　岡田淳子

基本選挙人名簿の縦覧について

公職選挙法の規定により、基本選挙人名簿を九月十五日現在で作製した。これは先般皆さんから御提出いたゞいた資格申告書によつたものであります、尚登録もれや間違いがあつてはなりませんので、次の要項によつて、一般の縦覧に供します。

1. 縦覧の期間
十一月五日から十九日まで(十五日間)
毎日午前八時三十分から午後五時まで
日曜、祭日も休みません
2. 縦覧の場所は役場であります。
3. 異議及び不服の申立は縦覧の期間中に限ります。最終日の十九日は特に午後十二時まで受理することになつております。

尚申立は小須戸町選挙管理委員会宛に文書で行わなければなりませんので、そうした場合は役場の係に御相談下さい。

以上の通りでありますが選挙権は国民が等しく持つ基本的人権の一つでもありますので、是非関心をお持ち頂きたいと思います。

(町選挙管理委員会)

さなぎ

一体どうなるがんだ

A「町の助役が又駄目になつたそうだの」

B「町会で一四対一一で否決になつたてがんだが、町長さんの人選が悪かつたつてわけか」

C「ほんとだかうそだか知らねども、年が若いとか、まだ一ぺんも議員の経験もないしなんだか頼りないというのが理由だという話だ」

D「いやそれもあるどもやつぱり選挙のしこりが残つていて議会が二派に分れている為だろう」

B「そうだとすると候補になつた者が気の毒だねか」

C「そればつかでない。今度又別の候補者を出しても反対されるこてさ」

A「どつちにしても困つたもんだ。当分又助役問題は見込みなしか」

D「いや見込みなしではすまないさ。町長さんも議員さんも協議会かなんかでとつくり話し合つて一時も早く町の女房役をきめてもらいたいもんだ」

C「おら達も今まではどうなるもんかと面白半分、弥次馬気分で眺めていたが、こゝへくると本気で考えないわけには行かないて」

A「全くだ。永久橋の問題も、もうすつかりきまつたと思つていたのにまだなんだかんだいうているようだし……」

B「先だつては町部に新潟のなんとか新聞の号外とかいう怪文書が配られたふうだし……」

D「ほんにこんなこんでは、町の将来は一体どうなるがんだと言いとうなるの」

A「なんというても全体の和合が第一だ。おらも町民として精いつぱい協力しねばならないし、町当局も町議会もあんまり感情問題に走らないで、本気に融け合うて建設的な方面へ進んでもらいたいもんだ」

C「全くだ。まだ町としては大きな問題がいつぱい残つているんだすけの」

(ある夜のある場所での話題よりM生)

「たばこ」は小須戸のたばこ屋さんから

こうは言つても決して町のたばこ屋さんから頼まれた宣伝文句ではありません。今年の町予算の歳入中たばこ消費税というのが二七三万円で歳入総額の六・六%を占めており重要な財源の一つになつております。そしてこの額は昨年より五三万円も増しているのでありますがこれは町民の皆さんがたばこは小須戸のたばこ屋さんからお買い下さつた結果であります。

お出かけの時などまず町のたばこ屋からお求めの上出かけるぐらいの心掛けで町財政のため御協力願います。

(役場の係)

全町和楽の祭典

町民運動会（十月二十五日）
文化祭（十一月二、三日）

老いも若きも手に手をつないでみんな楽しく美しく

町民芸能祭と共に三大年中行事として全町親和の伝統と誇りを持つ町民運動会、文化祭も回を重ねること既に十四、本年も華々しく開催されることになつた。現在県下各地で、こうした催しが恒例のように開かれているが、本町の場合は遠く公民館の前身である文化協会時代にこの問題が検討され、輝やかしい町つくり運動にはどうしても全町民の融和親睦が第一であるとの観点から、その第一回が開催されたのであつた。

勿論当時としては全県下の最先端を切つたものであり、いわば全県の草分けと言つても過言ではない。又この催しを通じて、公民館小、中、高校は勿論、青年団、婦人会その他の諸団体が生れ、育ち、農協、商工会、郵便局、警察署等までが積極的に参加されて、本町のあらゆる面の発展に大きな貢献をもたらしたことも事実である。時は流れ、大小須戸町建設は着々歩を進めているとはいうものゝ、なお前途には幾多の問題が横たわつていることが予想される折、今後一層全町民の融和と協力が必要と考えられる。その意味においても、本年のこの二つの催しを一段と意義あらしめたいものである。

町民運動会

期日　十月二十五日
但し雨天の際は十一月一日に延期
会場　中学校グランド

午前七時一発の煙火が大空高くとゞろきわたるはずである。九時半全員集合、宮崎館長の開会の辞、つゞいて来賓の祝辞競技開始となる。

個人レースには、おかゝ、あにやさ達の珍競争に、腹をかゝえる状景が展開されるだろう。さて分館対抗レースともなれば熱狂の応援と共に、火を吐くような白熱戦が行われそうだ。賞品は山の如く（？）、又新たに寄贈される町長杯は何れの分館の手に……。

午后四時閉会、快い疲労感に、明日への希望を胸に秘めながら我が家へ向う……というようなわけ

全町の皆さん。どうぞふるつて御参加下さい。

プログラム

個人レース
○キャットレース
○どじようつかみ
○ざる引きレース
○パン食いレース
○たろころがし
○ビンつりレース
○アペックレース
○計算レース
○タバコの火つけ
○職場対抗リレー

○来賓レース

分館対抗レース
○連青男子　一、五〇〇M
○〃　〃　一、二〇〇M
○〃女子　八〇〇M
○〃二人三脚四百M
○児童生徒レース
○年令別レース
○分館対抗球入れ・綱引き

文化祭

十一月二、三両日にわたり、学童、生徒その他の作品展の外、各種芸能発表、体育行事等多彩の催しがあります。どうぞ御期待下さい。

第一会場（中学校）
○中学校芸能発表会二日
○五番町神楽舞実演
○町民卓球大会三日
○中学校生徒作品展
○高校生徒作品展
○相互銀行募集作品展
○洋画三人展
○早川亜美先生作品展
○婦人会バザー

第二会場（小学校）
○県下柔剣道大会三日
○小須戸小生徒作品展
○矢代田小生徒作品展
○戸石小生徒作品展
○町民余技作品展
○俳句資料展
○相互銀行募集作品展
○美術同人作品展
○県下席書大会作品展
○商工物産展
○町山岳会

第三会場（公民館）
○菊花展

第二回　町民釣大会成績
十月四日　於西蒲今井

特賞（大物）鯉九寸五分　佐藤　悌三
残念賞　鮒七寸　須藤徳三郎
一等（漁）　森田吉之助
二等　須藤三郎　矢部　敏男
三等　加藤政雄　阿部安雄
四等　森田辰治　岡　友弘
五等　長井吉次　今井義雄　大木竹喜　鈴木鶴吉　長沢三郎　石川吾郎　岡崎　謙

新作家公募展に最優秀賞

会友にも推せん

中学校の成田先生

県下洋画壇の権威として重きをなしている、新作家協会の第四回公募展が、去る六日から十一日まで小林デパートに華やかに開催された。当町中学校の成田常信先生は昨年に引き続き出品されたが、堂々二点入選、中一点は唯一人の最高賞である新作家賞の栄冠を獲得した。同時に新しく同協会会友に推薦された。既に県文化展にも連続二回入選し、更に今回の栄誉を得たことは、県画壇の最高登竜門を突破したことを意味し、押しも押されぬ中堅作家として大いに将来が嘱目されるわけである。先生の栄誉を祝福すると共に、今後一層の精進を重ねて、町文化の発展の為にも十分の活躍されんことを祈るや切である。

尚、中央の行動美術展県文化展、その他のベテランである同校の小田哲先生も、新作家協会々員として、雄渾な大作を出展され、会場に一大光彩を放つた。

右両先生並に水田が生んだ新進作家横山明男（新津一中の先生）の作品を一堂に集め、来るべき町文化祭に「洋画三人展」として公開される予定である。

季節の料理

ゴマネーズあえ

材料　豚二〇〇グラム、小玉葱七ケ、ふつうの葱なら一本、ピーマン二個、マヨネーズ、白ゴマ（四五人前）

作り方

1. 小玉葱はできるだけ薄い輪切りにします。これを塩でもみ軽く水洗いして水気をしぼります。レモンの汁か酢をほんのタラタラくらいかけておきます。ピーマンはたて半分にしてクキとタネをとり、小口からこまかくきざみます。これを塩でもんで水洗いして軽くしぼつておきます。
2. 豚肉はスキヤキにするくらいに薄く切つてもらいます。これをさらに2、3センチの大きさに切つて油でいためます。塩と味の素でかるく味をつけ火からおろしてさましておきます。
3. 白ゴマを大さじ2いつて、スリ鉢でかたちがわからなくなるほどにスリつぶします。この中にマヨネーズ大サジ4、ときからし茶サジ一、味の素を入れて、よくよくまぜ合せます。あまいマヨネーズだつたら塩を少したして下さい。用意した豚肉、玉葱、ピーマンを入れてあえます。

（暮しの手帖51号より）

隨筆「釣」

第二回　矢代田　竹竿

ともかく釣に必要な道具は糸とハリ、エサであるということは古くから変わつていない。ただその材料は今日までに幾多の変遷があつて丈夫に便利になつたのは御存知の通りである。テングスがナイロンに変わり竿も又合成樹脂で出来るようになつてこういうところに科学の影がさしているがこれは科学の濫用という性質のことではない。アメリカなどマグロなどの大物釣りになると科学の粋をあつめたモーターボートを使うし竿も合成化学の所産であり、リールも大変機械的である。しかしこのような近代的なスポーツ、釣が漁業的行為でない証拠には、その釣果を大きさで競うコンテストにはちやんと使つた糸の太さでクラスが分けてある。例えば一貫匁しか抗張力のない細い糸で釣つた魚のうち一番重い魚が賞をもらう、即ち糸の太さに制限があるわけである。一貫匁の抗張力のある糸で一貫匁の魚をあげたより五百匁のよわい糸で一貫匁のものを釣つたほうがほめられることになる。今ならいくらでも丈夫な鉄の撚り線でも合成樹脂糸でも使えるのにその糸の強さでクラスを分けている点は釣りの手段に自ら低い限界の制限をもうけている。そういう制限を自らすることにこそ楽しみのための釣の意義があろう、釣りは狩猟に似ている多くの性質をもつている、その一つは我々の祖先が食糧を得るために野山に狩し海川に釣を垂れたことが我々の血のどこかにまだひそかに流れて今日尚我々を野山の海川に誘うということである。是をハンテング、インスティクト（狩猟本能）といつている。この狩猟本能は古代人からの習慣の遺物かも知れない。一つには食物を得るために一つには自らを野獣の脅威から守るための行為であつたろう。たしかに人は自分にかしずき自分の思うようになり自分のためになる動物達に対しては愛つ育するもので野性の狂暴な動物に対しては暴力を以て敵対する、さきに話したスポーツ類は、この野獣の脅威から守るための守攻のしぐさに起因し釣りは食糧獲得の方に起因しているのであろう。太古に食を得るためや身を守るためにやつた行為は最早職業的な生産となり食をらくに得られるような時代になつてからもレクリエーションとして古代人の習慣の遺物の意義にかわつて我々の生活のうちに残り何万年もたつた今日まで続いている。これからも益々さかんになつて続くだろう。近代の文明生活の環境が余りにも不自然であるためもともと野性をもつている人間という動物が自らの作つた科学文明の発展速度に自らの生理を順応させて行くことが出来ないために起る天然の欲求を野山への郷愁としてハケ口を求めなくてはならないからである。

これはことに都会の便利な生活をしている者やサラリーマンに強く欲求される。近代の科学文明が益々盛になればなるほど又速度が早くなればなる程この欲求は強くなろう。近代の機械化文明は人間の生活を自然のきびしさから保護し暑さ寒さをうける住居を作り衣服を与え食は求めれば与えられて何不自由なく暮せてもそれだけでは満足出来ぬ何ものかを残している。昔食を求めてあるき廻つた習慣はいかに機械文明にかしずいて生活している今日でもどこか我々の血の底を流れている。さん／＼と輝く太陽をもとで野山や海川の香のふくんだ風になでられながら大古さながら一竿一糸に魚信をまつ快は下戸よいざめの水の味を知らぬということわざのように釣友の味と思う。然しこれからもます／＼人の求めるものとなろう。

抽せん十名に賞品

◇先月の解答と当選者名発表

（正解者多数により抽せん）

横町　森田和恵
土堤町　高橋治治
住吉町　小林五郎
二番町　中野キヨ
三番町　川田田百子
四番町　臼井勝義
鎌倉　渡辺レエ
ウデコキ　笹川日出晴
矢代田　丸山末一郎
〃　保科文子

◇当選者は賞品を公民館へなるべく早く受け取りにおいで下さい。

東京毎日書道展に佐藤・坂井両氏そろつて入賞

去る九月美術の秋にさきがけて東京上野美術館に行われた毎日新聞社主催全国書道展は出品数五千を超える力作ぞろいの中に秀作三十名の中の上位に佐藤江山氏、入賞に坂井清風氏がそろつて入選された。

両氏の喜びもさることながら、書道小須戸の声価をあげ、後進へのよき刺戟としても心からお祝い申し上げたいものである。

特選金賞大量の入賞

北信越学徒競書大会

新潟大学主催、県教委、日本書道学会、新潟日報社後援第九回北信越学徒競書大会は、新潟、富山、長野三県の小中高校生約十万五千人が参加して行われたが、審査の結果特選三十名中、新津高校佐藤仁君が見事四位に入賞した金賞以上の入賞者左の通り

特選
新津高三　佐藤　仁
特選候補金賞
小須戸小四　村山英隆
小須戸中一　浅見良子
金賞
一年村山裕　本間みつ子
渋谷美智子
三年古川　茂　柳通　強
四年近藤　清　能登　保

十月購入図書

◇霊智医学と治病　訳　谷口雅春外
◇わたしのお医者さま　訳　山本恭子
◇雪子の結婚　源氏鶏太
◇いさましい話　山本周五郎
◇魚の本　末広恭雄
◇暮しの中の心理学　乾　孝
◇方言と文化　編　日本放送協会
◇隠密恋慕あさみ　佐々木杜太郎
◇青春採点簿　鹿島孝二
◇鏡子の家　第一、二　三島由紀夫
◇サイキック　死者との交感　アーサー、フォード　訳　村松仙太郎
◇誘惑　コールド、ウエール
◇波濤　井上　靖
◇黒い顔の男　新田次郎
◇有罪か無罪か　エックス、ブッシュ
◇乱世群盗伝　五味康祐
◇三百塔　横溝正史
◇サムライ日本　邱永漢

風間さんの美挙

新町の風間英二さんは過日交通事故の犯人検挙に協力し、この度警察署より金一封を贈られ表彰されたが「貧しい人達に」と、町の社会福祉協議会へ寄附された。近頃心ゆかしい美挙として敬意を表したい。

矢代田分館の文化祭

矢代田分館の文化祭は十一月二十三日に矢代田小学校を会場とし、多彩な催しがある。

当日の教室は児童、生徒、PTA、部落一般の作品その他の展示と、運動場は午前中生花展、午後は分館挙つてのかくし芸大会があり、今から準備に没頭している。

中学校だより

マラソン大会

去る十月十日恒例の全校男子耐久走大会が開かれ、二、三年は約四粁、一年は約三粁を走破し成果をあげました。成績次の通り

一年
一着　平間美佐男
二〃　石本　光男
三〃　加藤　英一
二年
一着　土田　紀雄
二〃　風間　松美
三着　目黒　孝
三年
一着　斎藤　繁雄
二〃　丸山　孝
三着　武沢　秋男

大芸能祭

今年も文化祭の一環として芸能祭を次の如く催すことになりました。町民多数のおいでをお待ち申しております。

・日　十一月二日
・時　午前十時から午後三時まで
・所　中学校屋内運動場

◎劇の部
三年　民話劇
「八十八ばなし」
二年　生活劇
「がんばれ雲さん」
一年　学校劇
「はせ参り」
クラブ　舞踊劇
「山びこ物語」

◎舞踊の部
一年「ユーモレスク」
二年「タンブリンと共に」
三年「泉のほとり」
クラブ「花笠音頭」
「新津松阪」
「秋だ、みのりだ」

◎音楽の部
バイオリン独奏
「無窮動」
大合唱
「ペルシヤの市場」
「みんなで歌う」
ブラスバンド演奏
「君が代行進曲」
「蛍の光」他
◇特別出演
五番町の「神楽舞」

駅伝競走

これも文化祭行事として十一月三日第二回町一周駅伝競走を実施します。これが本年最終の屋外体育行事であります。

尚今回、毎日新聞社より小柳新聞店を通じ、大優勝杯の御寄贈がありましたので、これが獲得を目ざして一段と競走が白熱化されることが予想されます。

さあ家中そろつて 第20回 懸賞クイズ

考えましよう

小さい頃からよく歌つたゝく歌つた
「さくら、さくら、やよいのそらは」の「やよい」は「三月」のことですが次にあげたものは何月の呼び方でしようか。

1　如月　きさらぎ
2　卯月　うづき
3　文月　ふみづき
4　霜月　しもつき
5　皐月　さつき
6　長月　ながつき
7　師走　しわす
8　水無月　みなづき
9　睦月　むつき
10　葉月　はづき
11　神無月　かみなづき

◎おわかりの方は——
・答をハガキに書いて公民館内「公報クイズ係」あて
・〆切は十一月五日
・正解者多数の場合は抽せん

五年本望広子　渡辺則男
風間松衛　矢部礼子
中野紀代枝　佐藤朝子
平間美江子　小林五郎
五十嵐和称　西村照子
川村田百子　島倉雅志
渡辺チヅ子
六年上田幸子　古川兵衛
高野正栄　小林寿美子
栄森光夫　石井恵子
小林健次　佐藤礼子
渡辺　麗　菅井　稔
栗原道夫
中一　砂井久一　江平正子
石井敦子　五十嵐輝男
佐藤葉子　岡崎　律
塩野修　我妻ルリ子
中二　東樹幸子
中三　風間五郎
高校　佐藤八重子　藤田芳子
五十嵐光江　小島公子
大塚小夜子　栄森洋子

尚特選入賞者は十月二十五日高田に於て授賞式が行われる。

中学校だより

駅伝競走

これも文化祭行事として十一月三日第二回町一周駅伝競走を実施します。これが本年最終の屋外体育行事であります。

尚今回、毎日新聞社より小柳新聞店を通じ、大優勝杯の御寄贈がありましたので、これが獲得を目ざして一段と競走が白熱化されることが予想されます。

十三夜

小須戸町俳句日好会

鰯雲ミルクの皺がちぢみ出す　越樓
稲架解くや間近に見えし町工場　樫夫
日延べして秋遠足の降られゆく　杏水
妻と居て独りの心十三夜　山葵
雲怪し稲運ぶ人皆必死　水月
雨降りて稲架縋びんと張りつめり　向日葵
柘榴の裂けしこの家今日も留守　芳人
こうろぎや山着脱ぎ置く枕上み　石秋
病む窓にしげし秋日の照りかげり　雲竜
秋桜そよがねは向い蝶がたつ　紫川
農道にはづれ捨てある稲車　旺資
無花果を食うて又貰う子の土産　一陽
万年青の実赤し撒水夕冷えて　洗水